

令和3年4月23日

全国肉牛事業協同組合

事業統括 若松周夫

1 ホルスタイン種

① ホルスタイン種雌牛は0～21ヶ月齢の牛の数は若干減少傾向に有る。

『要因』

- 21ヶ月齢未満の牛は北海道に7割、他県3割の割合で飼養されている。
- 他県ではホル雌に和牛受精卵による和牛生産と、和牛精液による交雑種生産が主体となり乳牛の後継牛が減って来ている。

【今後の予測】

- 今後北海道からのホル雌需要は高まり、価格の高騰が考えられる。

2 交雑種

- ① 12～1月素牛出荷頭数が一番底の状態にあり、価格もピークを迎える状態にある。
- ② 3～6月素牛出荷頭数は増えて来る状態なので、価格は若干さがる傾向に有る。
- ③ 後はどれだけ素牛市場に出荷されるかによって、価格は決まってくる。

【今後の予測】

- 来年末以降頭数は減少傾向に向かうものと思われる。

3 和牛

- ① 国の補助事業の影響で和牛繁殖頭数は若干増加傾向に有る。
- ② グラフからも月齢の若い雌牛飼養頭数は増加傾向が見られる。
- ③ 出生率が前年より100%を超えてはいるが、子牛市場に出てくる割合が55%前後まで落ち込んで来ている。

『要因』

- 自家保留雌牛の増加。一貫経営の増加

【今後の予測】

- 子牛市場に出回る割合が 50%前後まで落ち込むことから、子牛価格は慢性的に不足の傾向が続き、高値安定が予測される。
- 繁殖農家にとっては追い風であっても、肥育農家は逆風状態が続き経営は厳しい状況下は続くものと思われる。